

音楽科の主張

1 教科で育みたい人間像

- 5 私たちは音楽科を通して、「**音楽による感動を味わい、音楽文化に親しむ**」人を育みたいと考えている。音や音楽には、人々の心を動かし、豊かにしていく力がある。音や音楽のよさを味わい、心が揺さぶられる体験を重ねていくと、人々は音や音楽による感動をますます味わいたくなるだろう。音や音楽による感動には、時として言葉で表現できないほどの心の動きがあり、このような感動は、主体的に音楽文化に親しまなければ体感できないものである。自ら感動を求めていくことは、生活の中に音楽を取り入れるきっかけとなり、人生をより豊かなものにしていくことにつながる。
- 10 音楽文化に親しむことで、世界中で育まれてきた様々な歴史や背景をもつ音楽それぞれに、固有の価値があることに気づき、音楽に対する知識・感性が養われ、その音楽が生まれるルーツとなった音楽文化や国の伝統自体を尊重していこうという思いを抱くことだろう。自分の知らない音楽についてのよさを味わう経験は、伝統文化を尊重する心や自分たちとは違う音楽文化について深く考えるきっかけとなる。
- 15 音楽のよさや美しさを味わうことを通して、生活の中に音楽を取り入れ、子どもたちに豊かな心が育まれていくことを願っている。

2 教科ならではの文化

- 20 私たちは「音楽科ならではの文化」を「**音を媒体としたコミュニケーションが生まれる営み**」であると考えている。音や音楽は目には見えず、時間が経つと消えてしまう瞬間の芸術ではあるが、音楽に対する感性を豊かに働かせながら表現や鑑賞を行うと、私たちは時間や空間を共にする人々と、よさや美しさを共有することができる。さらには時間を越えて、過去に生きた人々の思いにふれることもできるだろう。
- 25 音楽の営みは、「つくる人」「演奏する人」「聴く人」それぞれの立場の人が、様々な思いや意図を抱きながらそのコミュニケーションに携わることで成り立っている。「つくる人」(作曲家・編曲家・楽器制作者等)、「演奏する人」(アーティスト・ミュージシャン等)、「聴く人」(観客・リスナー等)それぞれの体験をしたり、音楽への思いを共有したりしたとき、より音楽に対する知識・感性が養われていくだろう。
- 30 音楽に対する感性を豊かに働かせながら、音を媒体としたコミュニケーションを充実させていくことこそが、「音楽のよさを味わい、音楽文化に親しむ」人を育むことにつながると考えている。

3 願う子どもの学び

- 35 私たちが願う子どもの学びとは、「**音楽に対する感性を働かせながら、音や音楽と向き合うこと**」である。音や音楽は、「自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化など」との関わりの中で、人間にとって意味あるものとして存在している。授業を通して、世の中にある音や音楽と出会い、様々な音楽がもつ固有の価値を尊重し、その多様性を理解できるように学びを展開していきたい。自分とは異なる文化的・歴史的背景をもつ音楽を大切にしながら、「音を媒体としたコミュニケーションが生まれる営み」を様々な題材で体感することで、子どもたちが音や音楽と向き合い、音楽に対する考え方が広がったり、深まったりしていき
- 40 音楽に対する感性を働かせるとは、音楽を聴いて感じた心の働きを、音楽を形づくっている要素と結びつけて知覚した姿のことである。個人の好みや「何となく美しい」といった直感だけで音や音楽を捉えていくのではなく、音楽の言葉を用いたり、音楽を形づくっている要素を音で確認したりしながら、他者にどう伝わるのかを考え、表現・鑑賞を行うことで音楽に対する感性は磨かれていくと考えている。音や音楽と向き合うとは、「音や音楽との対話」「内面(自己のイメージや感情)との対話」「他者との対話」を繰り返しながら、主体的に音楽とかがわることである。音楽と向き合いながら対話を行うことで「表現してみたい」「自分にも頑張ればできそう」「もっと様々な音や音楽のよさや美しさを味わいたい」という姿につながるだろう。そのため、まず大切にしたいのは、「自分も取り組んでみようかな」「頑張ればできそう」という子ども

たちの思いである。これらの思いは、音楽経験の異なる子どもたち全員が、ためらうことなく心を解放して積極的に音楽活動に取り組むことのできる雰囲気の中で育まれるものである。

願う子どもの学びを実現していくために、音楽科では、題材のもつ価値を吟味し、子どもが「何でこうなるのだろう」「以前学習した曲と似ている部分がある」「この曲の雰囲気が素敵だな」などの、音楽への思いが生まれるような題材選定を行いたい。また、題材構想の中に思いや考えを伝え合う場面を意図的に設定することで「音を媒体としたコミュニケーションが生まれる営み」を感じさせられるようにしていきたい。このような学びを積み重ねることで、音楽に対する知識・感性が養われ、多様な音楽文化に幅広く親しむ子どもを育むことができると考えている。

「音楽に対する感性を働かせながら、音や音楽と向き合うこと」を通して、中学校の音楽の授業だからこそ育むことのできる、子どもの学びを実現させていきたい。